

## 歴史と風景から「みなとヨコスカ」の魅力を探る講演会 ーみなととその風景からみた横須賀の魅力ー

平成27年7月11日、国土交通省国土技術政策総合研究所、関東地方整備局東京湾口航路事務所、土木学会土木史研究委員会主催、横須賀市後援で、歴史と風景から「みなとヨコスカ」の魅力を探る講演会が、横須賀市のヨコスカベイサイドスポットで開催されました。講演会では4名の講演者の方に「横須賀の魅力ーみなとが育む風景」「海と船が見える坂道ー横須賀の地形と歴史が生み出した風景ー」「海の関所横須賀港ー東京湾要塞から浦賀水道航路」「海軍が残した遺産ー横須賀軍港水道半原系統」についてご講演頂きました。当日は休日にもかかわらず、約200名以上の参加を得てたいへん盛況なものとなりました。

## 1. 横須賀の魅力を探る —「港」「地形」「国防拠点」

横須賀市の魅力については既に発刊されている優れた書籍や写真集などで詳しく語られています。今回の講演では上記3つのキーワードで横須賀の特徴を考察します。

### 2. 港

ヴェルニー公園をはじめ、F倉庫や海上自衛隊艦船補給処食糧庫など戦前の特徴的な倉庫群が港湾部に点在しています。また、久里浜港に1969年に整備された東京電力横須賀火力発電所の排気塔などは港の重要なランドマークとして活用できる貴重なランドスケープ遺産と言えます。



久里浜田浦線深礎擁壁（阿部倉）

### 3. 地形

上町台地、大楠など丘陵性の地塁山地が卓越する地形を反映し、擁壁やトンネルなどの特徴的な構造物が市内に多数存在しています。市内の主要な幹線道路である久里浜田浦線の阿部倉地区や安浦下浦線の粟田地区には円柱の連続する外観が目立つ深礎擁壁が整備されています。また、“谷戸”を横断するトンネルも多数存在し、それらを集めた「横須賀トンネルマップ」も作成されています。特にJR田浦駅のドアカットは名所と呼ぶに相応しい事例と言えるでしょう。これについては自分も注目しており、奈良文化財研究所(2013)



JR 田浦駅のドアカット

「パブリックな存在としての遺跡・遺産」にて「明治時代に軍事鉄道として整備され、戦後の急激な宅地化によって東京圏の通勤鉄道へと変貌する横須賀線そのものの歴史が深く刻まれた風景」として紹介しています。

### 4. 国防拠点

江戸中期に浦賀に奉行所が整備されて以来、横須賀製鉄所や海軍工廠、1884年の横須賀鎮守府の設置など、横須賀は軍都であると同時に重要な国防拠点として位置づけられてきました。その歴史を示す貴重な国防遺産が市内に多数現存しています。猿島砲台と千代ヶ崎砲台は今年国の史跡になりましたが、その他の関連施設に対する価値づけも今後議論されていく必要があるでしょう。特に原形維持におけるポイントや活用手法などについては慎重に検討される必要があります。



千代ヶ崎砲台

### 5. おわりに

横須賀の姉妹都市であるイギリス南岸のMedway市は、横須賀同様に国防拠点として発展した都市です。市内には国防遺産の優れた活用事例があるほか、同沿岸部ハンプシャー州にある「Spitbank 海堡」は、原形をしっかりと維持しながらも別用途に見事に活用されています。姉妹都市にこのような「学ぶべき知恵」が多数埋まっていることはまさに現代の横須賀の「幸運」と言えるでしょう。使える知恵は食欲に吸収するという明治以来の日本人の意気込みを、今度は国防遺産の活用というジャンルでも大いに発揮したいところです。



Medway 市における国防遺産の利活用例

## 海と船が見える坂道—横須賀の地形と歴史が生み出した風景—

国土技術政策総合研究所  
管理調整部長 吉田秀樹

### みなとまち横須賀の魅力とは

地方創生が叫ばれる昨今、地域の活性化のためには、その魅力（個性）を再発見し活用していくことが必要となってくる。今年、横須賀港が開港 150 周年を迎えるにあたり、みなとまち横須賀の魅力（みなとまちらしさ）について考えてみることにし、ここでは、①海と船が見える坂道、②独特の風情を持つパン屋、③角打ち、④米国文化の 4 つを取り上げる。



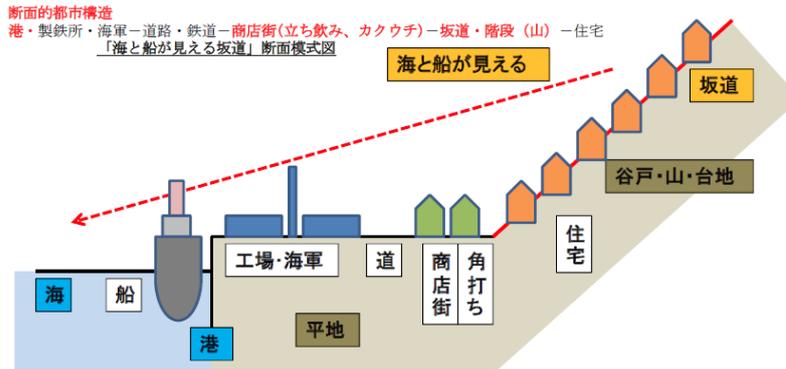
「台地・平地連絡路型」の坂の例

目の前は横須賀製鉄所跡地（現在は米軍）。



「住宅地内型」の坂の例

戦後開発された丘陵地内住宅の一直線坂



「海と船が見える坂道」断面構造模式図

### 「海と船が見える坂道」として 124 坂を抽出

横須賀港は、函館、長崎などと同様、背後の山がそのまま海に落ち込む天然の良港であり、このため坂が多いという特徴を有している。そこで横須賀市東京湾側の 12 地区 168 坂を踏査し、「海と船が見える坂道」である約 3/4 の 124 坂を含む「海と船が見える坂道」マップを作成した。

横須賀では 150 年前の開港以来、平地の少ない場所に都市が発展してきた。臨海部には工場、海軍が立地し、人口増のため丘陵・谷戸に宅地開発が行われた。その結果、その間を結ぶ坂道、階段が発達した。抽出した坂道は、その成り立ちから①広域道（浦賀道・国道 16 号線等）、②寺社（近世）、③住宅地内（近代・現代）、④台地・平地連絡路（近代・現代）の 4 類型に分類できる。

### みなとまちらしさは意外なものの中にも

丘陵・谷戸の住宅地と臨海部の工場等の間には商店街、角打ちが発達した。角打ちとは北九州などにも見られるが、臨海部の工場などで働く人々が、その一角で酒を飲めるようになっていた酒屋の形態である。また商店街には、ソフトフランスパンと呼ばれる丸くて柔らかなフランスパンなどを売るレトロなパン屋が点在している。このパンは大正時代に遡るとも言われており、ハイカラなみなとまち文化の名残と考えられる。

### 誇りを持つとともに楽しむ

このように地形とともに生活の意外なものの中に残っている横須賀の「みなとまちらしさ」について情報発信し、地域活性化に結びつけたいと考えている。市民の皆さん方も是非、自ら歩き、みなとまち横須賀の個性を発見し、誇りを持つとともに楽しみ、情報発信してもらいたい。